

## 広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08-15-5/5）

### 目 的

研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、及び不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスロビーにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

### 成 果

#### 1. 『年報』2014の刊行

2015（平成27）年6月30日付で年報を刊行した。構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報部会員が原稿のとりまとめを行った。

#### 2. 『概要』2015の刊行（研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）

『概要』2015を刊行した。概要は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2カ国語により簡潔に紹介している。各ページの構成の決定や原稿のとりまとめは、各部・センターの概要部会員が行った。

#### 3. 『東文研ニュース』の刊行（研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）

『東文研ニュース』を日英2カ国語により3回発行した。基本的にはウェブサイトに掲載した毎月の「活動報告」のうち、各部・センターで特に紙媒体でも広報したいとして選んだ記事を掲載する。この他、東文研ニュースには、文化財やその保護に関する特定の話題について見開き2ページにより紹介するコラムや、東京文化財研究所の刊行物の案内、人事異動などを掲載している。

#### 4. パネル展示の調整

1階エントランスロビーに研究成果を伝えるためのパネルを作成し、展示するとともに、その内容に関する小冊子を日英2カ国語で作成した。

- ・2015（平成27）年3月29日～2016（平成28）年3月23日 「近代文化遺産の保存と修復－東京文化財研究所の関わり－」（保存修復科学センター）
- ・2016（平成28）年3月24日～ 「選定保存技術－漆の文化財を守り伝えるために」（文化遺産国際協力センター）

### 研究組織

○二神葉子、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、小林公治、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、小山田智寛、高橋佑太（以上、企画情報部）

広報委員（概要部会）：岡田健（保存修復科学センター長） 各部門概要部会員：今城裕香\*<sup>1</sup>、林昌宏\*<sup>2</sup>（以上、研究支援推進部）、塩谷純（企画情報部）、今石みぎわ（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）

広報委員（年報部会）：田中淳（副所長） 各部門年報部会員：長澤由美子\*<sup>1</sup>、安川政和\*<sup>2</sup>、今城裕香\*<sup>1</sup>、林昌宏\*<sup>2</sup>（以上、研究支援推進部）、小林公治（企画情報部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、森井順之（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）

広報委員（東文研ニュース部会）：山梨絵美子（企画情報部長） 各部門東文研ニュース部会員：今城裕香\*<sup>1</sup>、林昌宏\*<sup>2</sup>（以上、研究支援推進部）、皿井舞（企画情報部）、菊池理予（無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

\*<sup>1</sup>平成27年12月まで \*<sup>2</sup>平成28年1月から

## 広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（\*③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した（概要・ニュースは研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）。詳細は、57頁を参照。

## 平成26年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（⑥企09-15-5/5）

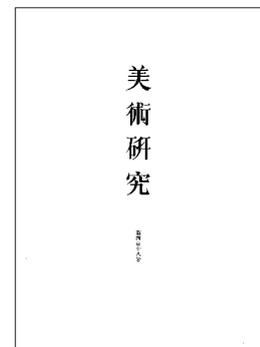
### 『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成26年版は、B5判、474ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



### 『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、研究ノート、書評、展覧会評、図版解説・研究資料等を掲載している。本年度は416号、417号、418号を刊行した。出版に際して、東京美術商共同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



## 無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04-15-5/5）

### 『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

